

## 1人ひとりの望む暮らしを目指して～ソーシャルワークの実践～

利用者の「想い・願い」を中心に据えて支援にあたることを、愛泉会では1つのテーマにしています。どんなところでどんな暮らしをしたいか、その想いを具現化するために様々な取り組みを実施しています。想いの実現に向けて一緒に取り組んでいる内容をご紹介します。

### グループホーム支援センターなかやま 「地域に羽ばたく暮らしの実現を目指して」



中山町に2件目のグループホームとして、今年4月に「サニーハウス」がオープンしました。居室や廊下についている天窓から陽が差し込み、ホーム名のとおり明るい居住空間となっています。また、障がいの重さや年齢に関わらず安心して生活ができるようバリアフリーになっています。日常の喜怒哀楽の渦の中にもくつろぎや和らぎをもてるよう「自分の城」として過ごしていただけるような居室空間を提案しています。

#### 入居された皆さんに暮らし心地についてお聞きしました。

「ご飯おいしい、スパゲティおいしかった、魚おいしかった」

「歩いて買い物行けるからいい」

「お料理してみたい」

「お風呂気持ちいい」

「くすり眠れる」

「もっと職員と一緒に過ごしたい」

「時々家に帰りたい」

「テレビ観るのが好き」

「もっと買い物に出かけたい」

「部屋落ち着く」

「部屋にカギかけられるから気に入った」

色々な声が聞かれました。オープンしてまだ3ヶ月程度ですが、皆さんに「わが家」と呼んでもらえるようなホームにしていくことが私たちの今の目標です。



#### ご家族にグループホームへ入居する際の想いや地域の障害福祉サービスについてお聞きしました。

「一昨年の水害のときに家族で実家に避難しました。両親が働いているため、本人がひとりで過ごしているときに災害が起きたら心配だと実感しました。親なき後の生活を考えるのこともありますが、グループホームなら何かあったときにいつでも対応してもらえるという「安心」を期待して入居を検討しました。グループホームは定員があつという間に埋まってしまうことを知っていたので、町内にサニーハウスができると知ってすぐに手をあげました。本人には、自分の気持ちをスムーズに伝えられる方法がこれから見つかるといいなと思っています。中山町に、放課後デイサービス(遠くまで通った経験があるため)、相談事業所、もうひとつ作業所があるといいなと思います。」

ご家族の皆さんには、環境が変わっても安心して暮らせるようご本人の好みに合わせた家具や衣類など様々な準備をしていただきました。ご家族の想いが詰まった持ち物をお預かりしたときパトンを受け取ったような気持ちになりました。また、身近なところにライフステージに合わせた障害福祉サービスを整えて欲しいという地域の需要に触れることができました。

#### 支え愛

地域の床屋さん「サントス」の代表 石川さんご夫妻

主に男性の利用者さんが通っている地域の床屋さん「サントス」の代表石川さんご夫妻にご協力いただき「サニーハウス」について話を伺いました。

佐藤：町内にグループホームが増えたことについてどう思いましたか？

石川さん：小さい町なので来てくれるとありがたいし、できた方がいいね。地域の人はどういふ人が住んでいるのか分かってもっと安心すると思う。

佐藤：男性利用者さんがカットでいつもお世話になっていますが、実際に接してみてどうでしたか？

石川さん：違和感や抵抗感はありませんでした。不慣れな場所に来て不安そうにしている様子が見られたときは緊張しないように配慮しています。お客様の身だしなみを整える仕事なので障がいのある人にも清潔でかっこよくいてもらいたいと思ってやっています。

佐藤：地域の福祉に対する希望はありますか？

石川さん：ひとつ上の世代(70～80代)の人は、隣近所の目が気になってある程度離れたところにある事業所を利用したがる地域性があった。でも、今は住み慣れた地域で使えるサービスがあった方がいいと思います。

佐藤：最後にグループホームに対して要望はありますか？

石川さん：逆に私たちへの要望を聞きたいです。例えば、店の前や近所をひとりで歩いている利用者さんに対して声をかけた方がいいのか。

佐藤：お声がけをしてくださるとありがたいです。地域の方から見守ってもらえるとにより安心です。

「サントス」には看板猫がおり、お店で触れ合うことができます。散髪帰りの利用者さんは「かわいっけ」と教えてくださいます。床屋さんとしてだけでなく交流が持てる場所であることを改めて感じました。

#### 今後の取り組みとして

今私たちは、利用者の皆さんの生活拠点「安心して暮らすわが家」となるようホームの基盤づくりに取り組んでいます。今後は、ご家族や地域住民の方との交流を保ちながら、意思決定支援をとおして、その人なりの地域資源の活用スタイルができるようサポートしていきたいと思っています。ひとりの市民としての利用者の皆さんに対する取り組みが、やがてはゆたかな地域づくりに発展することを信じています。

[グループホーム支援センターなかやま 佐藤 陽子]